

◇県大会審判必携（簡易版）

千葉県高体連テニス専門部 審判部

1. 審判として

①選手より早くコートへ行き、余計な物がないか等コート状況を確認する。（ネット中央の高さは91.4cm。シングルスライン外側からスティック中心まで91.4cm。スティックはネットを挟み交差し立てる。スコアボードにドロー番号の表示。）

②中立な立場で、公正、公平、正確な判定を心がけ、試合をコントロールする。

③ジャッジコール（主審、副審、ラインアンパイア）、アナウンス（主審）は大きな声で明確に行い、スコアカードに正しく記入する。

※ ジャッジコール → 計時 → カウントアナウンス → スコアカード記入

④主審は、サーブを打つ時にレシーバーが構えているか必ず確認し、サーブモーションからフットフォールトをチェックする。サーブが打たれてからは、ボールから目を離さず、目で追う。試合中に起こるすべての事実問題について判断する。副審（ラインアンパイア）の判定が正しいか確認し、明らかなジャッジミスに対してはオーバールールする。主審は、事実問題の最終判断者である。（インかアウトか、妨害があったのか等。）アウトオブプレーからは、失点した選手を視野に入れ、判定について質問があれば答え、ハンドシグナル、アイコンタクトを使い、選手を納得させる。タイムバイオレーション、コードバイオレーションはRUを呼び対応してもらおう。

⑤主審は時間管理をする。ポイント間20秒。過ぎた場合は「レッツ プレイ！」。エンドチェンジ90秒。60秒経過で「タイム！」。セットブレイク120秒。90秒経過で「タイム！」。「タイム」から15秒経過でポジションについていない場合は「フィフティーンセカンズ」。

※ タイブレイクのエンドチェンジも20秒。ベンチには座れない。水分補給とタオルの使用は可能である。

⑥副審（ラインアンパイア）は担当ラインに集中し、正確な判定を行う。ジャッジコールは、ボールが接地した直後に「フォールト」、「アウト」と大きな声で行う。「フォ！」「アウ！」のように最初の言葉にアクセントを置く。 ※ 大きな声でプレーを止める。 → その後、ハンドシグナル。

レット（サーブがネットにかかる。）、ポイントレット（プレー中に、隣のコートからボールやビニール袋が飛んできた等。）、ウエイトプリーズ（ポイント間に）のコールをする。

※ 右手を垂直に挙げ手の平を主審に向け「レット」「ウエイトプリーズ」とコール。

アウト、フォールトのハンドシグナルは、手の平を主審に向け、ボールが出た方の腕を地面と水平に真横に出す。イン、グッドのハンドシグナルは、手の平を下に向け、両手で指を揃えて地面と水平に主審に向けて出す。

※ サービスのグッドは毎回必ずジェスチャーする。ラリー中のきわどいボールについては、その都度ジェスチャーする。シグナルは出しっぱなしにしない。

⑦ジャッジミス、コールの訂正も堂々で行う。

グッドのボールをアウト（フォルト）とコールした場合。

主審 「コレクション ザ ボール ワズ グッド」「レッツ ファースト サービス」

副審 「コレクション ザ ボール ワズ グッド」

アウト（フォルト）のボールをグッドとジャッジした場合。

速やかに「アウト（フォルト）」をコールする。

※ 選手、監督の抗議により、オーバールールしたり、判定を覆してはいけない。

⑧選手、監督に事実問題（アウトかインか。ノットアップかそうでないか。）で抗議されても、人差し指を立てて「アウトです。」手の平を下に向けて「インです。」と毅然とした態度で対応する。それでも、解決困難ならば、RUを呼び対応してもらおう。

選手、監督に法的問題（ルールに関する問題）で抗議された場合、解決困難ならば、RUを呼び対応してもらおう。（レットなのか、ポイント成立なのか等）

副審、ラインアンパイアが抗議された場合、再度ハンドシグナルを示す。納得しない場合、主審と確認の上、選手および監督に説明する。解決困難ならば、主審はRUを呼び対応してもらう。

- ⑨MTO（メディカルタイムアウト）は、打撲、捻挫、擦り傷、切り傷、出血、鼻血、嘔吐、熱中症などで認められる。筋けいれん（疲労および体力の消耗）は、ケガではないのでMTOは認められない。MTOは3分以内で、セルフトリートメント（自分で治療する）が基本である。選手がMTOを要求した場合は、すぐにRUを呼ぶこと。

2. プレマッチミーティング

①団体戦開始時の挨拶

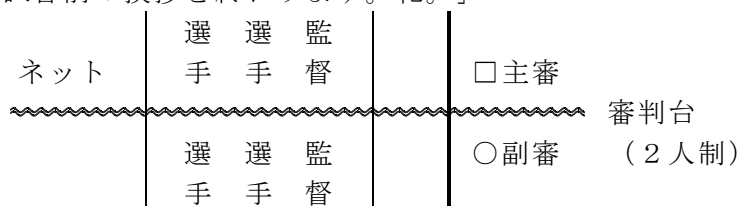
ア 整列

ダブルスのコートを使用し、原則として、ドロー番号の小さい学校が審判台から見て右側のコートに、審判台側から監督、選手（登録順）の順で整列する。

イ 挨拶（主審）

- (1) 「試合前の挨拶を行います。サービスラインに整列して下さい。」
- (2) 「ただいまより、男子（女子）団体1回戦（○回戦、準々決勝、準決勝、決勝、順位決定戦） A高校とC高校の試合を行います。礼！」
- (3) 「ネットの前までお進み下さい。」
- (4) 「監督の先生は、オーダー用紙の交換をお願いします。」
- (5) 「監督の先生は、ダブルス、シングルス1、シングルス2の順に選手の紹介をお願いします。」 ※ ドロー番号の小さい学校から紹介する。
- (6) 「ありがとうございました。引き続き試合を行いますので、選手は準備をしてコートに入って下さい。」
- (7) 「これで、試合前の挨拶を終わります。礼。」

ウ 整列の仕方



②団体戦各試合（ダブルス シングルス）試合開始時の挨拶

ア 挨拶（主審）

- (1) 「只今より、男子（女子）団体戦1回戦（○回戦、準々決勝、準決勝、決勝、順位決定戦） A高校 と C高校 のシングルス（ダブルス）の試合を行います。主審は◇◇高校の△△です。よろしくをお願いします。」
- (2) 「A高校のaさんですか？（bさんですか？）」
「C高校のcさんですか？（dさんですか？）」
※ 選手が服装規定を守っているか確認する。選手の名前と顔が一致するようにスコアカードに特徴（ウェアの色、身長、眼鏡等）をメモする。
- (3) 「試合は1タイブレークセット（8ゲームプロセット 3セット）マッチです。」
- (4) 「それではトスを行います。」※ ラケットトスでよい。
- (5) 「何を選びますか？」
※ トスの勝者は I. サーバーかレシーバーの選択。
II. エンドの選択（審判台から右側左側）。
III. 相手に上記I. かII. を選ばせる。
- (6) 「試合前の練習は3分間です。サービスから始めてください。」
※ 初戦は、3分間の練習あり。それ以降は、サービス4本のみ。主審は審判台に上がる。副審は位置につく。練習中にボールをよく見て、目を慣らしておく。フットフォールの癖があるか確認する。
- (7) 「2ミニッツ」（残り2分です。）
- (8) 「1ミニッツ」（残り1分です。）
- (9) 「T i m e !」（練習終了です。）

※ 20秒以内に試合開始。

選手がベンチに戻った場合は、「レッツ・プレイ」。

③団体戦終了時の挨拶（全対戦終了時）

ア 挨拶（主審）

（1）「△番コートサービスのラインに整列して下さい。」

※ 団体戦開始時と同様に整列する。

（2）「只今の試合は、ダブルス1-0 シングルス1-1 計2-1で C高校の勝利が決定しました。礼！」

④個人戦各試合（ダブルス シングルス）試合開始時の挨拶

ア 挨拶（主審）

（1）「只今より、男子（女子）個人戦1回戦（○回戦、準々決勝、準決勝、決勝、順位決定戦）A高校a選手（b選手）とC高校c選手（d選手）のシングルス（ダブルス）の試合を行います。主審は◇◇高校の△△です。よろしくお願いします。」

※ 以下は ②団体戦各試合（ダブルス シングルス）試合開始時の挨拶を参照

イ 終了時

（1）試合終了のアナウンス後、両選手の握手を確認する。 → 勝者からスコアカードにサインをもらう。

3. 試合時のアナウンス

①試合開始時・・・サーバーはa

ア 団体戦

「1 タイブレイク セットマッチ A高校 a トゥ サーブ プレイ！」

イ 個人戦

「1 タイブレイク セットマッチ a トゥ サーブ プレイ！」

※ 3セットマッチ

「ザ ベスト オブ 3 タイブレイク セットマッチ a トゥ サーブ プレイ！」

②アドバンテージ時

ア 団体戦 「アドバンテージA（高校）」

※ 団体戦では、学校名（高校は省略可）

イ 個人戦 「アドバンテージc」

※ 個人戦では、個人名（ダブルスでは、サーバーの名もしくはアドバンテージサイドのリターナーの名）

③ゲームを取った時

ア 1ゲーム終了後

「ゲームA ファーストゲーム C高校c トゥ サーブ」

※ アナウンスの手順は「ゲーム」 → 「取った方の名」 → 「スコア」

ゲームカウントのアナウンスは、そのゲームを取得したポイントの直後に行う。次のゲームのサービスの前ではない。ダブルスの場合、各選手が最初のサービスゲームのサービスを打つ前に紹介する。（試合開始から第4ゲームまで）

イ 2ゲーム終了以降

「ゲームC ワン オール」

「ゲームA Aリーズ 2-1（ツー ワン）」

ウ 6オール時

「ゲームC 6オール タイブレイク A高校a トゥ サーブ」

※ タイブレイク時は、最初のサーバー名のみ紹介する。

エ タイブレイク時

「1-0（ワン ゼロ）A」「5-1（ファイブ ワン）A」「エンドチェンジ！」

※ タイブレイク中のスコアは、最初にスコアをアナウンス（大きい数字を先に）し、次にリードしている学校（選手）をアナウンスする。

④試合終了時

ア 1セット

「ゲームセット アンド マッチA 6-4 (シックス フォー)」

イ 3セット

「ゲーム アンド ファーストセット A 7-6 (セブン シックス)」

「ゲームC Cリーズ 3-1 (スリー ワン) セカンドセット」

「ゲーム アンド セカンドセット C 6-4 (シックス フォー)」

「ワンセット オール ファイナルセット」

「ゲームセット アンド マッチA ツーセットツ トゥ ワン」

「7-6 4-6 6-3」

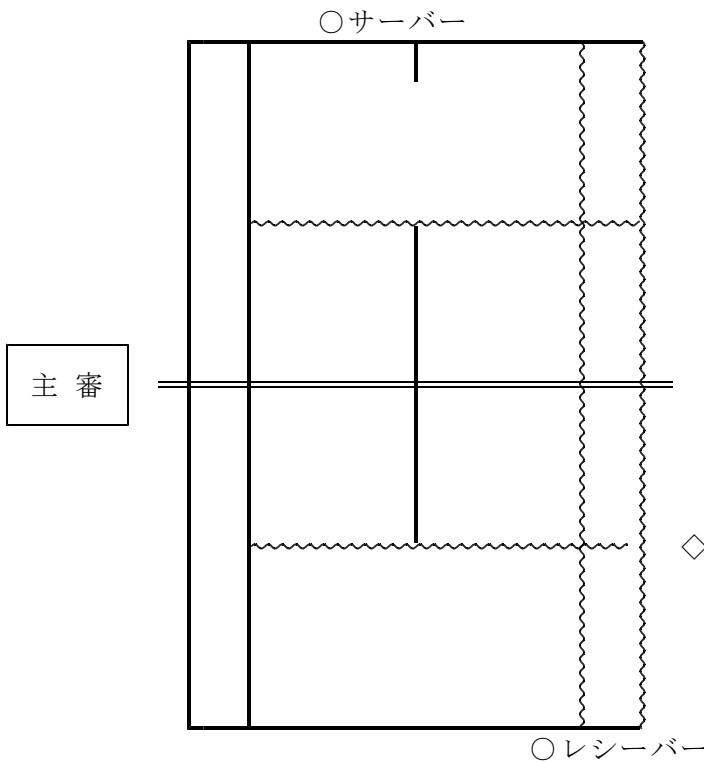
※ リタイヤの場合

「ゲームセット アンド マッチA 5-3 (ファイブ スリー リタイヤ)」

※ 勝者からサインをもらう。

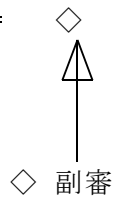
4. 審判方法 (役割、配置、判定ライン)

① 2人制審判



ア 主審の役割 判定ライン —————

- ・スコアのアナウンス、スコアカード記入。
- ・フットフォールの判定、センターサービスラインの判定。
- ・ベースラインの判定、主審側サイドラインの判定。
- ・レット、ノットアップ、ファウルショット、タッチ等のコール。
- ※ 副審が「レット」「ウエイトプリーズ」とコールした場合は、そのコールを繰り返す。



- ・副審の明らかなジャッジミスに対するオーバールールの適用。
- ・20秒、90秒ルールの適用。
- ・スコアカードの管理。

イ 副審の役割 判定ライン ~~~~~

- ・サービスラインの判定。 → ポール横にムービング。
- ・副審側のサイドラインの判定。(ベースラインのジャッジはしないこと。)
- ・主審の補佐。(主審に見えなかったベースラインジャッジ判定)
- ・レット(サービスがネットにかかる。)およびポイントレット(隣のコートからボールやビニール袋が飛んできた等。)のコール。 ※ 右手を垂直に挙げ手の平を主審に向け、「レット」「ウエイトプリーズ」とコールする。

ウ ポイントレットについて

- ・インプレー中「レット」がコールされても、次に示す状況が起こった場合は、「レット」は取り消され、ポイントが成立する。
- ☆ レットコールの前に打たれたボールが、コート内に正しく入らなかった場合は、そのボールを打ったプレイヤーは失点し、レットコールの前に打たれたボールが、明らかなウイニングショット、エースの場合は、そのプレイヤーの得点となる。
- ※ 主審は、「レットコール」瞬間の状況をよく見極め、ポイントレットかポイント成立かを判断する。副審と協議してもよい。